

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

マルチメディア応用専門委員会

1/3

企画戦略委員

石岡 譲 (富士通)

登録委員数

47/18

正副委員長
リーダー・サブ

委員長：山本秀樹 (OKI)、副委員長：芹沢昌宏 (NEC)

図解

活動の目的・意義

- ITU-T SG16で扱っているマルチメディアやデジタルサービスに関するテーマについて標準化を行う委員会。ITU-T SG16会合の対処方針や提出寄書の審議をこの委員会で行う。審議対象には、TTC内に対応するSWGや専門委員会の無いSG16の課題やSG16全体に関するものも含む。現状、IPTV-SWG、電子情報健康管理SWG、アクセシビリティSWG、メディア符号化・通信SWG、ILE-SWG、マシンビジョン-SWGの6つのSWGから構成される。
- SG16の課題にとらわれず、TTCの会員様からの新しいニーズで上記にマッチしそうなものは積極的に新SWGやアドホックを作り標準化推進の間口を広げる。SG16の既存課題にマッチしていなければ新課題の提案につなげる(例：Beyond 5G時代の新しいデジタルサービス)。
- 標準の提案は、ITU-Tに限らず、TTCの国内標準やASTAP (Asia Pacific Telecommunity Standardization Program)を含む。

活動する上での課題

- 既存のSWGに関連するテーマは、各SWGのページに記載。
- SG16の以下の課題(a)(b)(c)は関連するTTCのグループとの連携を深め、SG16への寄書の国内寄書審議の取りまとめは本委員会で行う。以下では、TTCグループ名を括弧の中に記載。
(a) 課題Q.5 AIによるマルチメディアアプリケーション (AI活用)
(b) 課題Q.22 分散電子台帳技術とeサービス (セキュリティ)
(c) 課題Q.27 車載マルチメディア通信、システム、ネットワーク及びアプリケーション (コネクテッドカー)
- 議論が進む車載マルチメディアや自動運転支援、新規提案のメタバース等に対する国内の情報共有、対処検討を迅速に進めること。

関連のSDGsゴール



標準化方針

各SWGのページに記載

国内外
標準化団体動向

各SWGのページに記載

マルチメディア応用
専門委員会

(*)

ASTAP EG MA

ITU-T SG16

IPTV-SWG

電子情報健康
管理SWG

アクセシビリ
ティSWG

メディア符号化・
通信SWG

ILE-SWG (超高臨
場感ライブ体験)

マシンビジョンSWG

Q12,22,23
,24,27

Q13

Q28

Q26

Q6

Q8

Q5,21

凡例

→ 寄書審議、対処方針審議、
会合結果共有等

(*)ASTAP対応の共有は22年度から実施予定

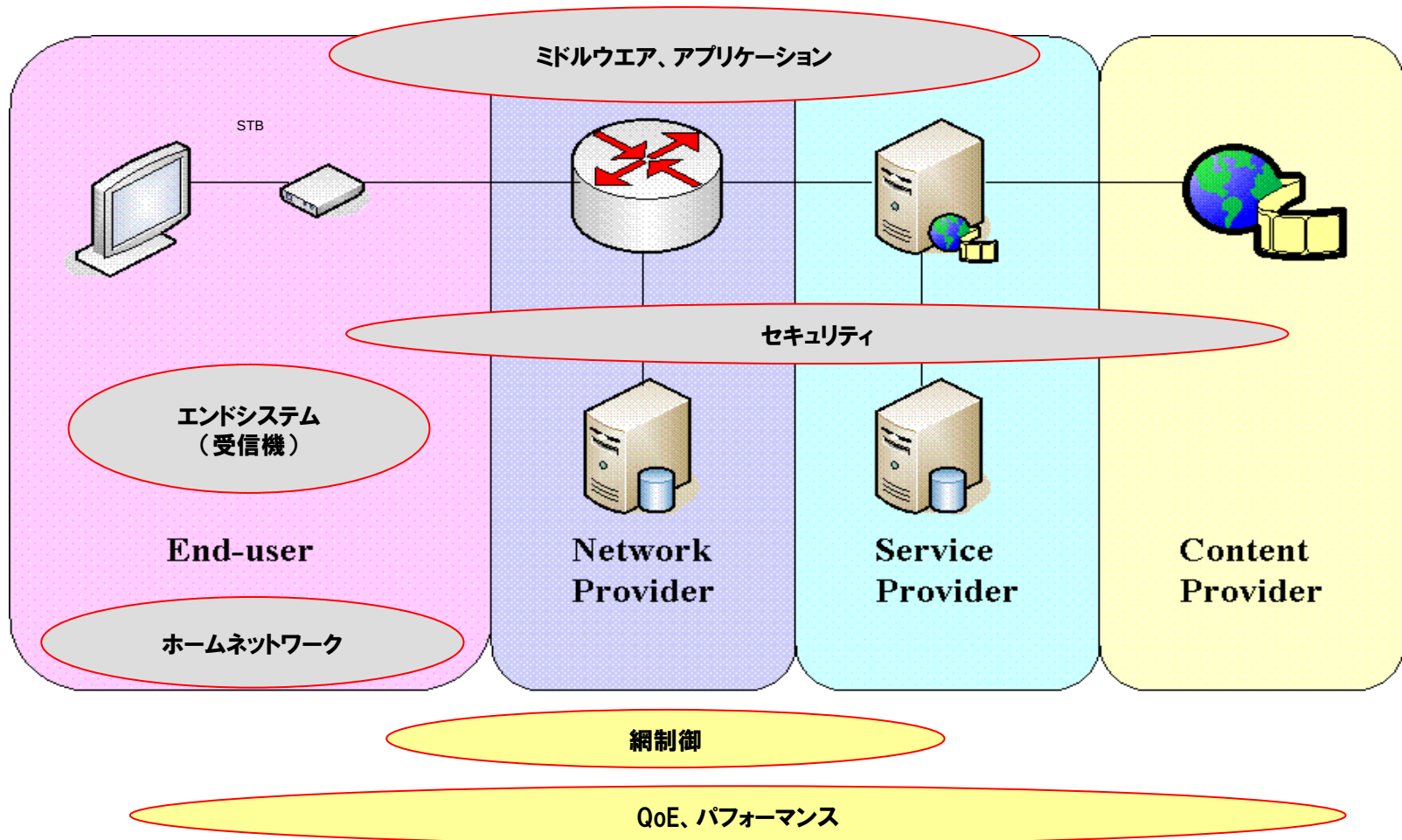
重点取り組みと成果	・ 会員からの要望で、マシンビジョン-SWG新設。22年1月のSG16で寄書提案1件。 ・ 全体では国際標準化団体アップストリーム17件（ITU-T寄書16件、ASTAP寄書1件）国内向けに、セミナー1件、国内標準仕様書0件、ダウンストリーム2件、記事掲載3件、国際画像機器展でのJIIAとの連携紹介1件を実施。			
主な活動項目	概況指標	2021年度目標（当初計画時）	2021年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	15件程度	17件 (SG16 4月:5件、ASTAP:1件、SG16 1月:11件)	
	外部会合への 参加・連携状況	SG16会合：4月、1月 ASTAP-33：第2四半期	・ITU-T SG16会合：4月、1月、9月(WP2/16) ・ASTAP-33：6月	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	各SWGで設定	なし	
	TS/TR/SR	各SWGで設定	なし	
③ ダウンストリーム	数	各SWGで設定	2件 ・JT-H430.5（超高臨場ライブ体験(ILE: Immersive Live Experience) ILE表示環境の参照モデル) ・JT-H266（多用途ビデオ符号化方式）	

重点取り組みと成果	- 会員からの要望で、マシンビジョン-SWG新設。22年1月のSG16で寄書提案1件。 - 全体では国際標準化団体アップストリーム17件（ITU-T寄書16件、ASTAP寄書1件）国内向けに、セミナー1件、国内標準仕様書0件、ダウンストリーム2件、記事掲載3件、国際画像機器展でのJIIAとの連携紹介1件を実施。			
主な活動項目	概況指標	2021年度目標（当初計画時）	2021年度実施状況	記事
④ プロモーション 普及推進	セミナー	各SWGで設定	以下のとおり開催 ・7/16：「コロナ禍における情報アクセシビリティの向上」	
	記事投稿、講演会	適宜SG会合の結果報告、ドキュメント作成、ダウンストリームの概要をTTCLレポートに寄稿する。	・TTCLレポート7月号に標準類制定状況「JT-H430.4」の記事を寄稿 ・TTCLレポート7月号にSG16会合の記事を寄稿 ・TTCLレポート10月号に「コロナ禍における情報アクセシビリティの向上」セミナ報告を寄稿 ・国際画像機器展(12/1-3)にて JIIA-TTC連携取組に関するパネル展示	

新テーマ及び重点取り組み	国内の民間団体の検討結果等に基づき日本企業の海外展開に向けた標準獲得のため、ILE、IPTV、アクセシビリティ、電子情報健康管理、マシンビジョンに関する国際標準化団体アップストリーム8件程度（ITU-T寄書7件、ASTAP寄書1件）を実施。国際標準化動向の情報提供のために、国内向けに、セミナー1件、ダウンストリーム1件を実施予定。			
関連する専門委員会とその内容	SG16の以下の課題(a)(b)(c)は関連するTTCのグループとの連携を深め、SG16への寄書の国内寄書審議の取りまとめは本委員会で行う。 以下では、TTCグループ名を括弧の中に記載。 (a) 課題Q.5 AIによるマルチメディアアプリケーション（AI活用） (b) 課題Q.22 分散電子台帳技術とeサービス（セキュリティ） (c) 課題Q.27 ITS（コネクテッドカー）			
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	8件程度		
	外部会合への参加・連携状況	SG16会合：9または10月 ASTAP-34：第1または2四半期		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	各SWGで設定		
	TS/TR/SR	各SWGで設定		
③ ダウンストリーム	数	各SWGで設定		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	各SWGで設定		
	記事投稿、講演会	適宜SG会合の結果報告、ドキュメント作成、ダウンストリームの概要をTTCLレポートに寄稿する。 6月 画像センシング展および 12月 国際画像機器展にてパネル展示を実施する。		

企画戦略委員	石岡 譲（富士通）	登録委員数	13/9
正副委員長 リーダー・サブ	リーダー 斎藤 恭一（NHK）、サブリーダー 長尾 慈郎（NTT）	図解	
活動の目的・意義	- 日本のIPTVサービスで採用されている方式を基にした国際標準への反映を目的として、IPTV（IP放送、映像配信、VOD）に関するITU-T SG16 関連の標準化活動を実施する。 - 国際標準との整合性を確認、確保すべく、IPTVに関わる国内外活動（ASTAP、IPTVフォーラム、DSC、W3C等）の情報収集も行う。	次ページ参照	
活動する上での課題	- 総務省および国内仕様団体と連携・協調した国際標準化 - 国内仕様化団体との整合性を重視し、IPTVおよびデジタルサイネージに関してサービスに必要な勧告についてITU-Tへアップストリーム		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	- IPTV及びデジタルサイネージに関するサービス市場の安定的成長と、会員それぞれの国内外におけるビジネス拡大に寄与するため、国内仕様とITU-Tを中心とした国際標準化の整合性を確保するとともに、先駆的サービス実現の観点からITU-Tでの勧告化に貢献する。 - 国内のコンセンサスの場としての活動を維持強化する。国内ビジネスの展開に役立つ「ダウンストリームすべき勧告」についての検討も更に強化する。 - ITU-Tにおける勧告体系の観点から、必要な勧告案に対するコンセンサスの連携強化と実効性のあるアップストリーム活動 - 国内既存サービスとの整合性確保と新サービス対応 - ビジネス展開に資するダウンストリーム		
国内外 標準化団体動向	- ITU-T：FG-IPTVの成果文書をベースとし、2008.1に開始したIPTV-GSI関連で100件の勧告、技術文書等が完成。 - DSCにて、デジタルサイネージに関する各種ガイドラインを整備。 - IPTVフォーラムにおいて、IPTVの4K8K対応について規格化。 - NexCDiフォーラムがパブリックビューイング関連の標準化を実施。		

IPTVアーキテクチャ



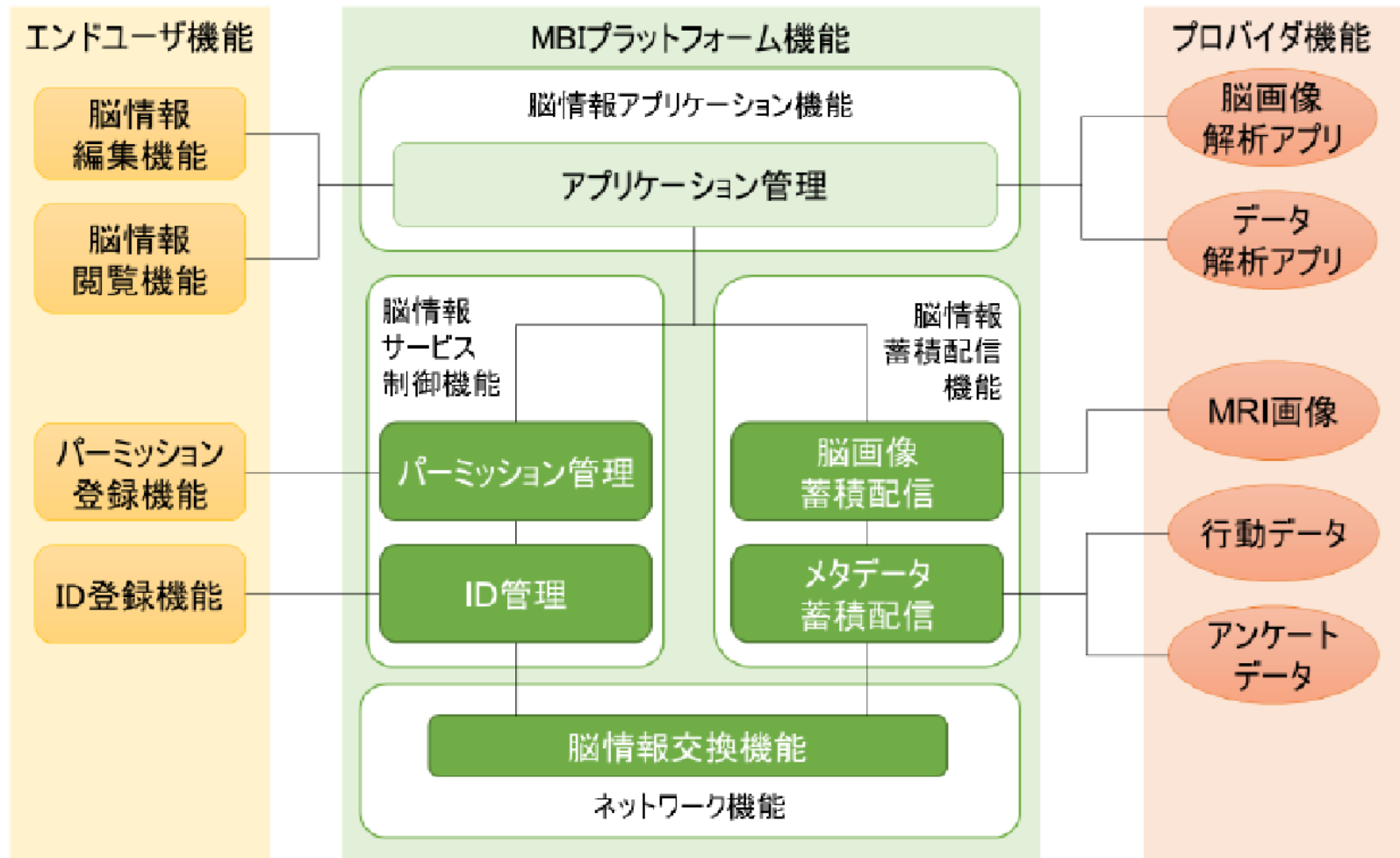
重点取り組みと成果	・ 会員企業のビジネスメリットのある国際標準化を推進することとし、新サービスやグローバル展開に向けたアップストリーム活動を継続 ・ IPTVフォーラム及びDSCの規格検討に合わせて同団体との連携を継続。国内外への普及の観点から必要に応じて必要となる勧告を日本主導で整備 ・ 会員企業の要望に応じてビジネス展開に資するダウンストリームを継続検討（実施には至らず）。			
関連する専門委員会とその内容				
主な活動項目	概況指標	2021年度目標（当初計画時）	2021年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	2件	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG16会合：4月、1月 ASTAP-33：第2四半期	ITU-T SG16会合：4月、1月 ASTAP-33：6月	
② ドキュメント作成 国内標準仕様書レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	1件	0件	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力		
	記事投稿、講演会			

- ・APT（Asia-Pacific Telecommunity）：アジア・太平洋地域のICT分野の標準化活動を強化し、地域として国際標準の策定に貢献することを目的として設立された共同体
- ・ASTAP（APT Standardization Program）：APT内の標準化機関
- ・IPTVフォーラム：Internet Protocolを使用した動画配信の仕様の標準化と普及を目的とした国内標準化のための一般社団法人。HTML5の作業グループがハイブリッドキャスト技術仕様を策定
- ・DSC（一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム）：デジタルサイネージ産業の課題解決と新市場の創出と生活シーンでのサイネージ体験価値向上をミッションとする組織。相互接続ガイドラインを作成
- ・W3C（World Wide Web Consortium）：World Wide Webで使用する各種技術の標準化を推進する為に設立された非営利標準化団体。
- ・NexCDiフォーラム（映像配信高度化機構）：高度映像技術及び高速大容量通信を活用した高度映像配信サービスの技術的な検証を加速し、本サービス開始と普及・展開を推進するため設立された機構

新テーマ及び重点取り組み	・ 会員企業のビジネスメリットのある国際標準化を推進することとし、新サービスやグローバル展開に向けたアップストリーム活動を継続 ・ IPTVフォーラム及びDSCの規格検討に合わせて同団体との連携を継続。国内外への普及の観点から必要に応じて必要となる勧告を日本主導で整備 ・ 会員企業の要望に応じてビジネス展開に資するダウンストリームを継続検討。			
関連する専門委員会または外部組織とその内容				
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	-	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG16会合：未定 ASTAP-34：未定		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：1回 TR：0回	TS制定 TR制定:	H.702ver2を予定
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力		
	記事投稿、講演会			

中期標準化戦略(概要と目的)		専門委員会・AG名	電子情報健康管理SWG	1/3
企画戦略委員	石岡 譲（富士通）		登録委員数	10/4
正副委員長 リーダー・サブ	リーダー：川森雅仁（慶應義塾大学）		図解	
活動の目的・意義	持続可能な社会の発展のために健康の増進や高齢化への対応は、最重要な要素のひとつである。そのためにICT技術の利活用は不可欠になりつつあり、相互運用性、社会での普及という観点からe-healthの標準化は、大きな意義を持っている。本SWGは、以上の背景から、最新のマルチメディアICT技術を用いた遠隔医療やICT健康保健の作業項目の標準化を行う。		次ページ参照 以下注釈： 「Continua（Continua Design Guidelines）」 Personal Connected Health Allianceによって発行されたガイドライン。 「Personal Connected Health Alliance（PCHAlliance）」 様々な健康・医療システムやサービスをシームレスに扱えることを目標とし、より質の高い「予防的な健康管理」と「慢性疾患の管理」、そして「高齢者の自立支援」の実現を目指す非営利団体 「The Common Pass」 ・出入国のためにPCR検査結果などを共有する世界共通の電子証明書の仕様策定などを進めるスイスに設立された国際的な非営利組織。米ロックフェラー財団が資金提供し、世界経済フォーラムや国際文化会館などが運営を担う。米Googleのエンジニアや米IDEOのデザイナーなどもメンバーとして参加	
活動する上での課題	国内での活動の活発化。標準化活動結果の国内での宣伝			
関連のSDGsゴール	   			
標準化方針	・ H.870のコンFORMANCEテストのアップストリーム ・ H.870の国内仕様の精緻化 ・ アクセシブル遠隔医療への提案、ダウストリーム；EMCの推進 ・ 脳情報プラットフォーム(勧告化完了)ユースケースなどの拡充 ・ F.780.1（超高精細医療応用）改定へのアップストリーム ・ F.780.1のコンFORMANCEテストのアップストリーム ・ 超高精細内視鏡に関連した色基準に関するアップストリーム活動（テクニカルドキュメント化） ・ Continua Guidelineのダウストリーム ・ The Common Pass標準化議論とアップストリーム			
国内外標準化団体動向	ITU-TSG16 Q28では、日本から提案した脳情報プラットフォーム、超高精細内視鏡等の標準勧告化がなされた。また以前から続いているContinuaAllianceGuidelineの勧告化が継続されている。WHOとの共同標準であるH870が業界の関心を呼んでいる また新たにFG on AI for Healthが2018年度より開始され、その動向が注目される。ISOのHealth Informaticsと、Q28/16 はリエゾンを通じて情報共有しており、上記の活動とも関連する。WEFが推進するCOVID-19に対応したThe Common Passの標準化。アクセシブル遠隔医療はWHOが推進している。			

脳情報プラットフォーム



重点取り組みと成果	・ Safe Listening勧告の普及・医療用UHD応用関連勧告化の推進。脳情報プラットホーム関連勧告化、アクセシブル遠隔医療の普及 ・ AIと保険医療標準化のワッチ； ・ 脳情報関連の新規テーマの検討			
関連する専門委員会とその内容	TTC-SWG1305'と医療におけるEMCについて協議。			
主な活動項目	概況指標	2021年度目標（当初計画時）	2021年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	4件	7件	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG16会合：2021年4、2022年1月	ITU-T SG16会合：2021年4、2022年1	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件	
③ ダウンストリーム	数	0件	0件	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・ 年度内に数回セミナーを開催する	7月にTTCオンラインセミナー「コロナ禍における情報アクセシビリティの向上」開催	
	記事投稿、講演会	TTCレポート、ITUジャーナル等	ITUジャーナル6月号、8月号、1月号にITU-T FG-AI4Hの会合報告を寄稿	

新テーマ及び重点取り組み	Safe Listening勧告の改定、普及。アクセシブル遠隔医療の推進、普及 医療用UHD応用関連勧告化の推進。 脳情報プラットフォーム関連勧告化。脳情報関連の新規テーマの検討 AIと保険医療標準化のワッチ コロナ関連勧告の検討。			
関連する専門委員会または外部組織とその内容	TTC-SWG1305'と医療におけるEMCについて協議。			
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数		-	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG16会合：時期未定 FG-AI4H:2月		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	1		
	TS/TR/SR	1件/0件/0件		
③ ダウンストリーム	数	TS： 回 TR： 回		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・ 年度内に数回セミナーを開催する		
	記事投稿、講演会	TTCレポート、ITUジャーナル等		

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

アクセシビリティSWG

1/3

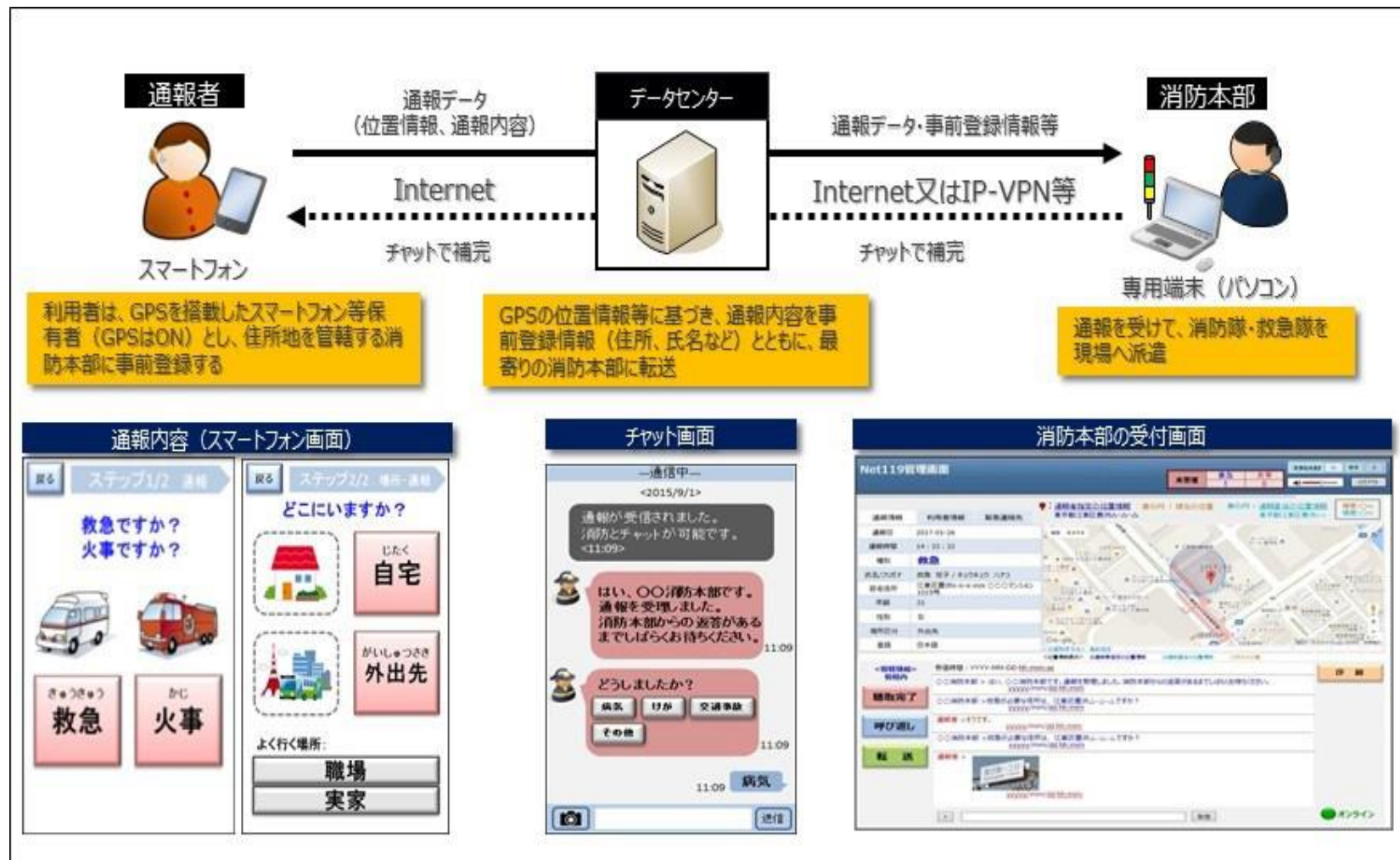
企画戦略委員	石岡 譲（富士通）	登録委員数	12/6
正副委員長 リーダー・サブ	リーダー：山本 高大（NTT）	図解	
活動の目的・意義	次ページ参照		
活動する上での課題			
関連のSDGsゴール			
標準化方針			
国内外 標準化団体動向			

次ページ参照

・Net119：マルチメディア緊急通報システムで、会話が不自由な聴覚・言語機能障害者が、スマートフォン等の携帯端末を利用し、消防本部へ音声によらない通報を行えるシステム

・WSIS : World Summit on the Information Society ITU主導のもと、各国首脳レベルで情報社会に関する共通ビジョンの確立を図るための具体的な方策を検討するSummit

Net119のシステム構成例



重点取り組みと成果	・Net119のサービス普及を側面からサポート（相互接続試験の場所提供など） ・電話リレーサービスが2021年度からスタートするのに合わせ、必要に応じて標準化（ガイドライン等）を検討			
関連する専門委員会とその内容				
主な活動項目	概況指標	2021年度目標（当初計画時）	2021年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	-	
	外部会合への参加・連携状況	・ITU-T SG16会合：4月、1月 ・IPTVアクセシビリティコンソーシアムとの連携	ITU-T SG16会合：2021年4、2022年1	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件		
③ ダウンストリーム	数	1件	-	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・年度内にセミナーを1回開催 （電話リレーサービスの勉強会なども検討）	7/16：「コロナ禍における情報アクセシビリティの向上」	
	記事投稿、講演会			

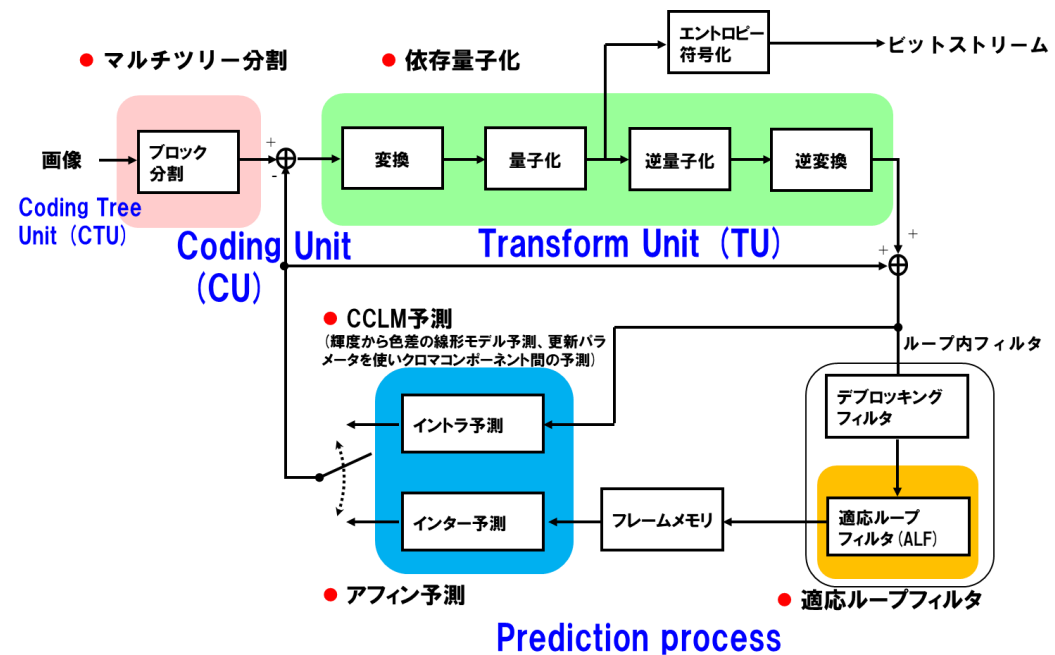
新テーマ及び重点取り組み	・ Net119のサービス普及を側面からサポート（相互接続試験の場所提供など）			
関連する専門委員会または外部組織とその内容				
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	-	
	外部会合への参加・連携状況	・ITU-T SG16会合：4月、1月 ・IPTVアクセシビリティコンソーシアムとの連携		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	1件	TS制定 TR制定：	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・年度内にセミナーを1回開催 （電話リレーサービスの勉強会なども検討）		
	記事投稿、講演会			

中期標準化戦略(概要と目的)		専門委員会・AG名	メディア符号化・通信SWG	1/3
企画戦略委員	石岡 譲（富士通）	登録委員数	8/7	
正副委員長 リーダー・サブ	リーダ：野澤善明（NEC）	図解		
活動の目的・意義	次ページ参照			
活動する上での課題				
関連のSDGsゴール				
標準化方針				
国内外 標準化団体動向				

(1)メディア符号化関連

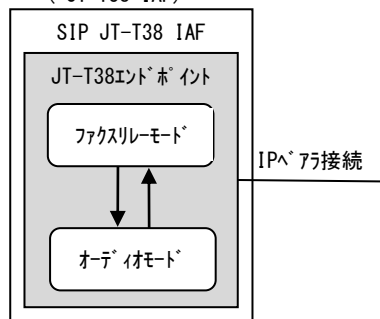
H266のエンコーダ構成図

●がH266を支える要素技術

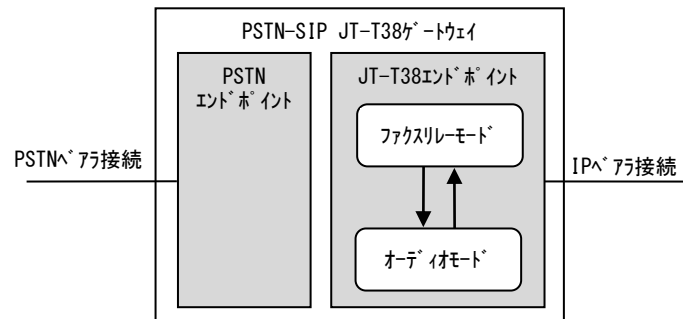


(2) マルチメディア通信システム関連

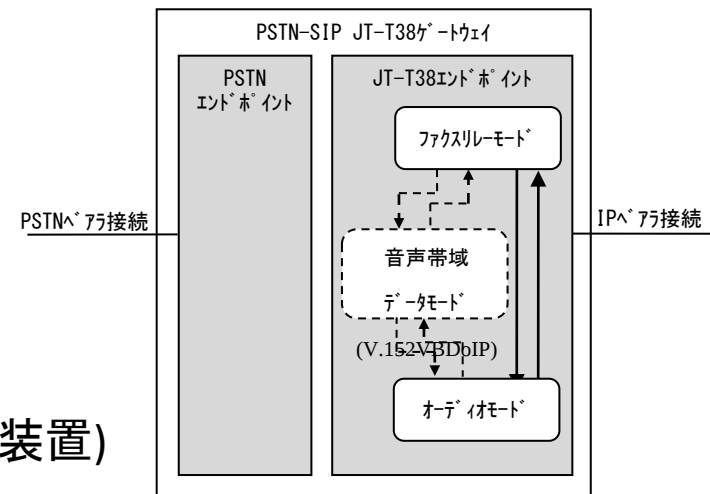
(1) SIP端末の状態モデル
(=JT-T38 IAF)



(2) PSTN-SIP JT-T38ゲートウェイの状態モデル(V.152サポート無し)



(3) PSTN-SIP JT-T38ゲートウェイの状態モデル(V.152サポート有り)



T38 音声及びファクシミリ呼のための状態モデル(SIP 装置)

2/3

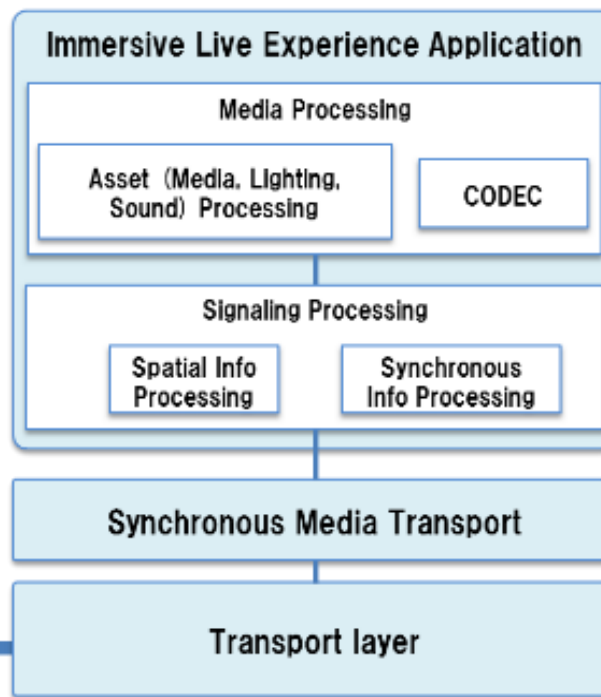
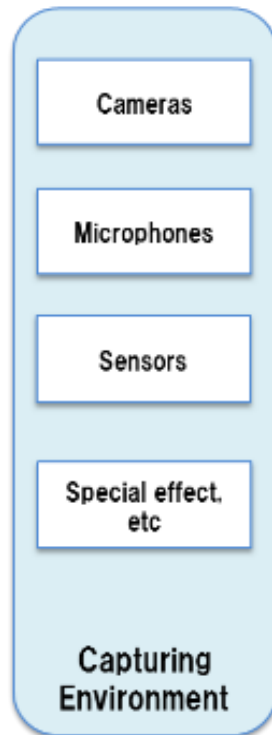
19

新テーマ及び重点取り組み	・ 会員企業の要望に基づきダウンストリーム活動の継続検討 ・ ダウンストリーム活動の要望や意義の確認も含めて検討 ・ 相互接続上の課題があれば、HATSフォーラムと連携した取り組みを実施 ・ FAX端末の要望に基づく活動の推進			
関連する専門委員会または外部組織とその内容				
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数		-	
	外部会合への参加・連携状況	HATSとの連携 JT-T38に関連して、HATSフォーラムにて接続試験の実施要領が制定され、接続試験が実施されている。試験実施結果を踏まえて、TTC標準JT-T38へのフィードバック要否等の検討を連携を図り実施する。		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS： 回 TR： 回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに要望に基づいて協力検討		
	記事投稿、講演会			

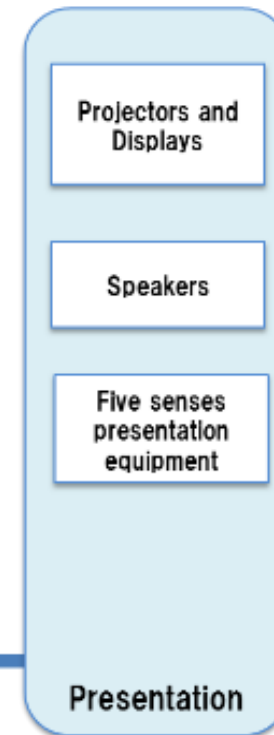
中期標準化戦略(概要と目的)		専門委員会・AG名	ILE-SWG	1/3
企画戦略委員	石岡 譲（富士通）	登録委員数	9/6	
正副委員長 リーダー・サブ	リーダ：長尾 慈郎（NTT）	図解		
活動の目的・意義	高精細映像、3D映像、多視点映像、立体音響等のメディア技術を更に発展させ、スポーツや音楽イベント等において、選手や出演者だけでなく観客の映像音声や振動等をまるごと遠隔会場に伝送し、リアルタイムに会場と一体となって感動を体感する、イマーシブライブエクスペリエンス（Immersive Live Experience（略称:ILE）,超高臨場感ライブ体験）技術をグローバルに啓蒙、普及することを目的として、国際標準化を検討する。	次ページ参照		
活動する上での課題	超高臨場感ライブ体験に関する技術動向を踏まえ、相互接続や技術・サービスの普及を目的とした標準化が必要とされている。			
関連のSDGsゴール	3 持続可能な開発目標 健康と福祉 4 持続可能な開発目標 質の高い教育をみんなに 8 持続可能な開発目標 働きがい、経済成長 9 持続可能な開発目標 産業、イノベーション、基盤 10 持続可能な開発目標 公平な社会 11 持続可能な開発目標 持続可能な都市とコミュニティ 13 持続可能な開発目標 気候変動に具体的な対策を			
標準化方針	- ILEに関する国際標準の必要性を啓蒙すべく、引き続き寄書提案を検討し、作業項目や勧告草案の充実を図る。 - 情報規格調査会（MPEG関連）やNexCDiフォーラム等、他団体との標準化連携を進める。			
国内外標準化団体動向	- MPEGではMPEG-I VVCで、360°映像や6DoF符号化、3DoF+符号化の標準化を進めている。 - DVBにおいてもVRに関する標準化が進められている。 - W3CではImmersive Web WGが、VRやAR向けデバイスをコントロールするAPI（WebXR Device API）の標準化を進めている。			

超高臨場感ライブ体験フレームワーク

Source Sites (Stadiums, Halls, etc)



Viewing Sites (Halls, Theaters, etc)



2/3

23

中期標準化戦略（2022年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名

ILE-SWG

3/3

新テーマ及び重点取り組み	- ITU-Tにおけるプレゼンス確保の観点から、ILEに関する基本勧告のメンテナンスや個別技術に関する勧告化を必要に応じて実施 - Beyond 5Gの超テレプレゼンス等、ILEに関連する動きを取り入れた作業項目等を検討 - メンバ間でのILEに関する相互理解を深めるため、イマーシブサービスの事例紹介をSWGで継続的に実施 - ILE勧告の国内認知を高めるため、ITU-T勧告のダウンストリームやセミナー開催を検討 - 情報規格調査会やNexCDiフォーラムとの合同会合の開催等、連携強化			
関連する専門委員会とその内容				
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度		
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG16会合：未定		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件		
③ ダウンストリーム	数			
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力する		
	記事投稿、講演会			

中期標準化戦略(概要と目的)		専門委員会・AG名	マシンビジョンSWG	1/3
企画戦略委員	石岡 譲（富士通）	登録委員数	5/3	
正副委員長 リーダー・サブ	木浦 幸雄（JIIA）	図解		
活動の目的・意義				
活動する上での課題				
関連のSDGsゴール				
標準化方針				
国内外 標準化団体動向				

活動の目的・意義	画像/ビデオによる視覚検査と欠陥検出、位置調整と測定、製品の識別・分類・追跡などを行うマシンビジョン(Machine vision) 技術をグローバルに啓蒙、普及することを目的として、国際標準化を推進する
活動する上での課題	—
関連のSDGsゴール	3 3 持続可能な健康を促進する 4 4 質の高い教育をみんなに 7 7 持続可能なエネルギー 9 9 産業・技術革新の基盤をつくろう 11 11 持続可能な都市とコミュニティ
標準化方針	マシンビジョンに関する国際標準の必要性を啓蒙すべく寄書提案などを行い、作業項目や勧告草案の充実を図る。
国内外 標準化団体動向	JIIA、及びそのアライアンスを締結しているA3（北米）、EMVA（欧州）、VDMA（ドイツ）、CMVU（中国）などの国際的なマシンビジョン業界団体での標準化活動と連携

2/3

26

新テーマ及び重点取り組み	・ITU-T SG16 Q5,Q21のマシンビジョンに関する寄書調査、問題提起 ・JIIA、及びそのアライアンスするマシンビジョン業界団体での標準化活動と連携 ・国際標準化動向の情報提供のための国内向けセミナー			
関連する専門委員会または外部組織とその内容				
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	－		
	外部会合への参加・連携状況	参加：ITU-T SG16会合：8月 ITU-T RGM会合：未定 連携：－		
② ドキュメント作成 国内標準仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件		
③ ダウンストリーム	数	0件		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	2件：6月 画像センシング展セミナー 12月 国際画像機器展セミナー		
	記事投稿、講演会	2件：6月 画像センシング展パネル展示 12月 国際画像機器展パネル展示		